

「全少」を日本一研究する指導者による提案

ZENSHOに 挑戦しよう！



養正館館長・渡辺貴斗 第63回



なぜ勉強しなくちゃいけないの？

★なぜ勉強しなくちゃいけないの？

現在、休校で子供たちが毎日家にいるので、イライラしているお母さんもうらっしゃることと思います。もっと勉強してほしいのに、ゲームとYouTubeばかりで、一日中叱ってばかりです。勉強しなさいと言うと、「勉強なんて何の役にたつの？ ユーチューバーになるから勉強しなくて大丈夫！ ユーチューバーは儲かるんだよ！」と面と向かって言い返されると、ぐうの音も出なくなってしまいます。子供たちに何とて諭したらよいのでしょうか？

★人気の仕事は先に無くなる

私は道場生に“なぜ勉強しなくてはいけないのか”について、よくこんな話をします。

「楽しくて仕方がなくて、しかもラクで、なのに給料の高い仕事が、世の中には多くはありませんが存在します。大学を出て、しっかり勉強した人たちがまずこういった仕事を先にとって行ってしまいます。なぜなら、会社の社長さんはそういった人たちを社員にほしいからです。人気のある仕事は、このようにすぐになくなってしまおうので、勉強しなかった人たちは、自分のやりたい仕事に必ず就けるといふ保証はありません。皆さん、やりたいことが決まっている人も決まっていない人も、ひとまず今勉強しておくことをおすすめします。今しっかり準備しておけば、後でやりたいことが見つかったときに、早い者勝ちでその仕事に就くことができるからです。また、途中で気が変わって仕事を変えたりすることも自由自在です。

みなさんは勉強するのもあと10年くらいですが、仕事に就いたあとの人生は50年近くあります。今

のうちに勉強を頑張ってやっておくか、もしくは、あとで辛い仕事を何十年も苦労して続けるか、どちらが賢い選択か明白ですね。

ユーチューバーになればラクでお金持ちになれると思っている人が多いようですが、休まず動画を撮って、それを編集して、毎日投稿して、それでもやっと人気が出るのはほんの一握りの人たちなのです。そんなに簡単ではないと思いますよ。

実際の社会では、勉強したかしないかだけで職業選択に優位性があるとは必ずしも言い切れません。最近は学歴偏重主義も昔ほどではなくなりました。しかしながら、ここでは子供たちへのカンフル剤として話していますので、やや断定的で偏重した表現になっていますことをご了承ください。

★映画の因数分解

ベネチア国際映画祭金獅子賞受賞をはじめ、今や“世界の北野”となったビートたけし氏の著書『間抜けの構造』に、“映画の因数分解”という興味深い話があります。

それにおいらはあまり映画の中で“説明”しないからね。説明しちゃうと意味が限定されてしまう。

(略)

例えば、Xっていう殺し屋がいるとするじゃない。そいつがA、B、C、Dを殺すシーンがあるとする。

普通にこれを撮るとすれば、まずXがあらわれて、Aの住んでいるところに行ってダーンとやる。今度はBが歩いてるところに近づいて、ダーン。それからC、Dって全部順番どおりに撮るじゃない。

それを数式にすると、例えば $XA+XB+XC+XD$ の多項式。これだとなんか間延びしちゃう感じで美しくない。 $XA+XB+XC+XD$ を因数分解すると、 $X(A+B+C+D)$ となるんだけど、これを映画でやるとどうなるか、という話が「映画の因数分解」。

最初に X が A をすれ違いざまにダーンと撃つ。それから、そのまま X が歩いているのを撮る。それで X はフェードアウトする。

それからは、B、C、D と撃たれた死体を写すだけでいい。わざわざ全員を殺すところを見せなくても十分なわけ。

(略)

……数学というのは、映画でも文学でもなんでも表現に活かせるものなんだよ。

『間抜けの構造』(ビートたけし著/新潮新書)より

北野監督は数学好きで有名ですが、因数分解の知識が無かったら、他の人と同じで、説明の多い野暮ったい映画を撮っていたことでしょう。それにしても、数学を映画に取り入れていたとは驚きです。「因数分解なんて何の役に立つの?!」という中学生の息子さんに、ぜひこの話をしてあげてください。

★世の中は誰が動かしている？

今回のコロナ禍で、休業している人たちへの補償問題や、国民への給付金の話が出ています。政府が国民のことを考えてくれているものもあれば、本当に考えてくれているのか疑問に思うものもあります。

国の大事なことを決めるには、まず法律を作らなくてはなりません。法律を作るのは国会ですが、政府が出す法案は、各省庁の官僚が作っています。国民のことを第一に考えてくれているのか、もしくは、自分たちに都合の良い法案を通そうとしているだけなのでは？ と疑いたくなるものもあります。世の中のルールを作る側に立つか、ルールで縛られる側に立つかで、人生における有利性が少なからず決まってしまうのも事実です。世の中のことを知ろうとせず、何の知識も持たないと、知らぬうち

に一部の人たちから搾取される側に回ってしまうのです。

★人生を豊かにする

ママさんたちは、我が子が初めて組手試合に出場したとき、ルールも分からず何が起きているのかちんぷんかんぷんだったと思います。今ではルールも分かってきて、試合後には我が子にアドバイスもできるようになりました。そして、初めて観戦したときより、今の方がルールも分かってきたので面白くなってきました。まるで白黒の世界だったのが、カラー映像に一変したかのようです。この世の中のことは知識があるかないかでは、物の見え方が全然違うということです。かけていたサングラスをはずしたくらい見え方が違い、まるで別次元にいるかのようです。得られた知識を使って物事を深く考えることもでき、人生をより豊かにすることができるのです。充実した幸せな人生を送るために、知識を得て勉強することは、やはり必要なことなのです。

PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年5名、2014年・2015年7名、2016年5名、2017年9名、2018年・2019年5名を全少入賞させ、一道場での全国最多入賞数の記録更新中。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。



空手道場 養正館/静岡県沼津市本田町 11-12



コロナの逆境を、空手界一丸となって乗り切ろう！その2

■「指導アイデア」募集！

学校体育館の使用制限、道場休館などで、稽古ができない状態が続いていることと思います。全国の先生方にどのように対応しているかインタビューしたところ、オンライン授業(=リモート授業=チャット授業)を中心とする以下の6つにまとめることができました。

- LINEグループを作って、そこに指導者が映像を配信(あっても見られるようにする)
- YouTubeに道場生「限定公開」で映像を流す
- ZOOMでLIVE配信して、一度に複数の生徒に指導(生徒とのやり取りができる)
- 指導者のLINEに家で練習した映像を送ってもらって、アドバイスを返信
- 希望する家庭に指導者が直接訪問指導(プライベートレッスン)
- 形、組手のオンラインサロンを作って全国から参加者を募る

指導者のみなさん共通しておっしゃることは、「このようなりモート指導も、やってもあと3カ月が限界」とのことです。3カ月後のビジョンは何も見えていないとのことでした。息子が通っている学習塾は、タブレットを全員に支給してオンライン授業に移行し、以前と変わらず授業を続けています。空手は体を動かすので(特に組手は相手が必要です)、オンラインでは限界があります。今では青空教室を行っている道場もほぼ皆無となりました。ある先生は海岸で道場生と練習していたら警察に通報されたそうです(通報したような人たちを自衛警察と呼ぶそうです)。すでに副業を始めた先生、道場を閉館して廃業した先生もいらっしゃいます。

そこで、みなさんの指導アイデアを全国から募集します。全国の指導者のみなさんと、コロナ禍での指導・道場運営のアイデアを共有しましょう！ママさんからのアイデアも歓迎します！

◆JKFan編集部/養正館担当・中地宛 メール、FAX、お手紙等(156ページを参照)でお知らせください。